

地域・コミュニティ部会における重点戦略のテーマ設定（案）

安全・安心

＜現状と課題＞

- ・ 日本の人口構造の高齢化は世界に例を見ないスピードで進んでおり、いわゆる団塊の世代がすべて 65 歳に到達する平成 27 年には、高齢化率は 26.9%となる見込みとなっており、平成 37 年には国民の約 3 割が高齢者になると予想されている。
- ・ 札幌市においても高齢化率は年々上昇し、平成 23 年には 20.7%、平成 24 年中には 21%を超え、いわゆる超高齢社会に突入する見込みとなっており、これに加え、核家族化の進展により、ひとり暮らしの高齢者も年々増加している状況にある。
- ・ また、家族や親族などの血縁関係や、居住地域における地縁関係は希薄化しており、長引く不況や雇用の不安定化といった要因が重なることで、“無縁社会”と言われる孤立しやすい社会へと急速に移行している状況にある。

＜ねらい＞

- ・ 高齢になっても住み慣れた地域で生活続けることを希望する市民は多く、安心して暮らせるまちづくりを進めていくためには、地域住民同士の支え合いが重要となる。
- ・ また、地域で暮らす高齢者などへの日常的な生活支援やきめ細やかな福祉サービスの提供、様々な困難を抱える市民の孤立防止などに取り組むには、様々な活動団体同士の連携・協力を推進することにより、相乗効果による活動の充実や発展が期待できる。
- ・ こうした地域における支え合いやつながりを生み出すコミュニティの形成を促進するとともに、地域だけでは支えきれない課題を解決するための社会システムを構築することにより、誰もが安心して暮らせる社会を実現することができる。

＜重点戦略テーマ（案）＞

－誰もが安心して暮らせる社会の実現戦略－

➤ 地域コミュニティの促進

地域住民同士の支え合いやつながりを生み出すコミュニティの形成を促進する。

また、地域活動に携わる様々な団体の活動の活性化を図るとともに、各団体間の連携を促進する取組を進める。

➤ 社会的包容力の強化

様々な困難を抱える市民が、孤立することなく適切な支援にたどり着け、社会に参加できる仕組みづくりと支援体制を構築する。

また、要保護児童をはじめとする子どもへの適切な支援を行い、子どもの権利の侵害からの救済体制の充実を図る。

次世代

<現状と課題>

- ・ 札幌市の出生数は、昭和 49 年（第 2 次ベビーブーム期）をピークに、ほぼ一貫して減少しており、合計特殊出生率についても全国平均を常に下回り、政令指定都市の中でも最低の水準となっている。
- ・ 札幌市が実施した市民意識調査では、理想とする子どもの数と現実の子どもの数に差が生じており、就学前と小学校低学年の子どもの保護者のうち 5 割近くが子育てへの不安感や負担感を抱えている状況にある。
- ・ また、雇用環境も厳しく、完全失業率や有効求人倍率などの雇用指標も全国より劣っている状況に加え、特に若年層の失業率が 10%を超えており、若者が職を求めて道外へ流出している現状にある。

<ねらい>

- ・ 少子化を改善するためには、仕事と生活の調和を図るとともに、女性が出産後も働き続けることができ、男性も女性も子育てと仕事を両立できる環境を企業と行政が協力して一層整えていくことが重要である。
- ・ 加えて、地域全体で子育てを支える環境づくりを進めることで、子育て家庭の悩みや不安を軽減し、子育てを希望する人の理想と現実の乖離を解消していくことが効果的である。
- ・ また、今後も都市の活力を持続していくためには、札幌の将来を担う人づくりも重要であり、豊かな創造力を持つ人材を社会全体ではぐくむ仕組みづくりを進めることにより、グローバル化する社会経済環境の中でもたくましく生き抜く力を備えた人材を育成することができる。

<重点戦略テーマ（案）>

一次世代を担う人づくり戦略

➤ 子育てを支援する社会システムの充実

仕事と生活の調和を図り、働きながら子育てしやすい環境づくりを進める。

また、子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育てに対する不安や負担を軽減するため、身近な地域で子育てを支える取組を推進する。

➤ 札幌の将来を支える人材育成

豊かな創造力をはぐくむ特色ある教育や国際理解を深める教育などを通して、グローバル化する社会経済環境の中で活躍できる人材を育成する。

また、地域全体で子どもを育てる仕組みづくりを進めることにより、将来の札幌のまちづくりの担い手を育成する。